



ぶどうの枝

2017年
秋号

天が地よりも高いように… (5)

千葉キリスト教会 牧師 磯部 豊喜

牧師インターンを終えて最初に遣わされた教会は、大岡山教会でしたが、その7年目が過ぎ去った年のこと、当時の東日本教区長、白石尚先生より電話がかかって来ました。「大岡山教会での働き、ご苦労様でした。先生にはこの4月から入間川教会へ行って頂くことになりました」。次の赴任先の報せでした。

はじめて牧師として独り立ちをさせて頂いた教会、いつの間にか7年半もの歳月が過ぎ去っていました。大岡山教会からの異動については、十分に働かせて頂いたという充足感はありませんでしたが、住み慣れた土地、また親しくさせて頂きました教会の皆様とお別れするのはとても寂しい思いがありました。牧師の働きの右も左も分からない20代の若僧に対して教会の皆様は本当に忍耐を持って関わってくださったと思います。

大岡山教会は、私にとって家内と二人三脚で歩いた最初の教会でしたから、牧師としては今でも故郷のような所です。しかも車も一番人気の品川ナンバー。東京の中の東京だと勝手に思っていたのでしょうね。埼玉県狭山市にある入間川教会は、すごく田舎に思えました。ところで、牧師にとって着任説教はとても注目されます。

その着任説教で、私は望郷の思いも手伝ってか、今から思うと入間川教会の皆様にはたいへん失礼な、挨拶の言葉を語ってしまいました。「大都会東京のど真ん中、大岡山から、この自然豊かな田舎の教会へ

越してまいりました磯部豊喜と申します…」この言葉は、決して悪いとは思っていませんでしたが、これを聞かれた入間川教会の皆様には、「田舎」という言葉が引っかかったようです。

当時、女性執事長をしておられた市川さん（故人）という方からは、ことあるごとに「牧師さんは、この教会を田舎の教会と言った」と笑いながらつつかれたものです。狭山市にお住まいの方々にとって、決してここは田舎ではないという思いがあったのでしょうか。…とはいっても教会堂の裏側には広大な田圃が広がっています（今でも）。さて、入間川教会は、大岡山とは打って変わって、男性と若者の多い教会でした。平均年齢は、40～50代と言えるほどの力ある教会でした。ですが、この田舎（また言ってしまった）の教会で、またまたポンコツ牧師の思いもよらぬドラマが用意されていたのです。

「わが思いは、あなたがたの思いとは異なり、わが道は、あなたがたの道とは異なっていると主は言われる。天が地よりも高いように、わが道は、あなたがたの道よりも高く、わが思いは、あなたがたの思いよりも高い。」（イザヤ書55:8, 9節）



説教をされる磯部牧師

「輝いて生きる力（その1）」

2016年11月5日千葉キリスト教会講演会『闇から光へ』（午後の部）から

千葉キリスト教会 牧師 磯部 豊喜

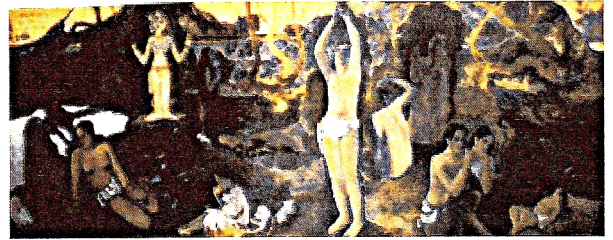
午後は、まず皆さんにこういう問いかけをしてみたいと思いますが、ご参加いただけますか。最初の質問です。「人間とは何ですか？」……「わたしやあなたは何者でしょう」。生物学者であればこのように答えるでしょうか。「人間とは、哺乳動物（肺呼吸をし母乳で子を育てる）で、直立歩行をする生き物のひとつ」。パスカルであればこの質問をこのように答えるでしょうか。「人間は風にゆらぐ葦のようである。葦のようにそれは弱い、考える葦である。」パスカル先生、なかなか味な言葉を残されましたね。人間とは果たして何者でしょうか？皆さんであれば、何とお答えになりますか？ある少年はこう答えました。「僕たち人間はマントヒヒからでてきたもの！」

午前、私は「聖書という本」についての話をしました。この聖書は、私たち人間の何を何と語っているのでしょうか？

旧約聖書のイザヤ書にこのように書かれています。「わたしの目にあなたは価高く、貴く／わたしはあなたを愛し／あなたの身代わりとして人を与え／国々をあなたの魂の代わりとする」（イザヤ43章4節）。私たち一人ひとは創造主なる神様によって作られた値高く貴いものだということです。

では次の質問です。「人生の目的は何か？」（僕たちの生きる意味はなにか？）私の人生の目的、私の生きる意味は果たしてあるのでしょうか？ゴーギャンという人は有名な画家の一人ですが、この人は生きることを意味を問いかけていた人ようです。彼の描いたタヒチの住民を描いた絵を皆さんは見たことがありますか？縦139センチ、横375センチにもおよぶ大作です。

この絵の右側には、赤ちゃんと母親がいます。



そして中央には、知恵の木に実った果実をもぎ取りながら、自分の生きる意味を問いかける男性の姿が描かれています。そして左側には、両手で耳を覆いながら座っている、今にも死にそうな老婆が描かれました。ゴーギャンはこの絵を通して、次の三つの質問を投げかけているのです。①我々はどこから来たのか？②我々は何者か？③我々はどこに行くのか？

このゴーギャンという人、この大作を描いた後にこんな言葉を遺していたといひます。「この大作は、仕上げる点では、はなはだ不完全。良い準備もなく、一月で仕上げた。実は、私は死にたいと思っていた。絶望の状態にあって、あつというまに仕上げて、大急ぎで署名した。それからかなりの量の砒素（身体に悪い毒物）をのんだ。きっと分量が過ぎたに違いない。ひどく苦しんだが、死は来なかった。」

ゴーギャンがこの言葉を書いたのが、1898年のことですがそれから5年後に、彼は誰にも知られずに54歳でこの世を去ったそうです。自殺なのか病死なのか不明ですが、彼が死を望んでいたことは確かなようです。

3 ページに続く



私たちの生きる意味、人生の目的、果たしてあるのでしょうか？私はこういう答えを持っています。「人生の目的、それはあります！」天の神様のみことばである聖書は何と答えているかを紹介しましょう。その目的は3つ。

- ①「イエスは言われた、「『心をつくし、精神をつくし、思いをつくして、主なるあなたの神を愛せよ』。これがいちばん大切な、第一のいましめである。」（マタイ 22章37-38節）
- ②「第二もこれと同様である、『自分を愛するようにあなたの隣り人を愛せよ』。」（マタイ 22章39節）
- ③「また、良い行いをし、良いわざに富み、惜しみなく施し、人に分け与えることを喜び、こうして、真のいのちを得るために、未来に備えてよい土台を自分のために築き上げるように、命じなさい。」（I テモテ 6章18-19節）

確かに「人生の目的」・・・①神様を知り、神を愛すること。②人を愛すること。③未来の備えをすること。の三つではないかと私は受け止めています。

アウグスチヌスという人がいます。この人は、若い時、わがままで悪いことばかりしていました。その彼は、人生の導きの中で、神様を知りました。後にこういう言葉も遺しています。「鳥は空の中で生きる。魚は水の中で生きる。人間は神の愛の中で生きる。私は神を知るまでは心に平和がなかった。」

神の愛・・・それはどのような愛でしょうか。またどの程度の愛でしょうか。神の愛、それは実に対象に向かって流れるものです。それが愛の姿です。皆さん、愛さなければといって愛を義務付けすることができるものでしょうか。しかし本当の愛は、自然に流れるものです。そして神は実にその愛を私どもに向けて熱く流すのです。聖書の言葉を見てみましょう。「神はそのひとり子を賜わったほどに、

この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである」（ヨハネ3章16節）。

天の神様にはひとり子があつたといひます。天の神は、そのひとり子を、私どもの救いのために送ってくださったとあります。

その独り子こそがイエス・キリストです。このお方は神の御子でした。神の愛は、動く愛です。イエス・キリストの言葉を紹介しましょう。「わたしはあなたがたを捨てて孤児とはしない。（みなし子にはしない!）」（ヨハネ14章18節）

東京の新宿区一円に、一枚のビラがまかれました。そこにはこういう感動的な内容が書かれていました。

- 迷い犬、見つけてくださったかたにはお礼をします。
- 犬の特徴。老犬、雑種。※この犬は若くもなく、血統書付きでもない。
- 名前はジロー、目は白内障で白い。※病氣持ちだという。何と言っても次の言葉がすごい。
- たとえ死体でも・・・「死体でもお礼をします」と書かれてあつた。

実は、天の神様はこの犬の飼い主のように私どもに深い関心と愛を注いでくださっているのです。自分では生きる価値がないと思えるような人にも神は愛を注ぎ救おうとしてくださるのです。

4 ページに続く





ここで一人の方を紹介しましょう。この写真の人です。皆さんは、この女性を知っておられますか？とても美しい人ですが、次の写真ならば分かるでしょうか。

金賢姫（キム・ヒョンヒ）という人

です。1987年11月、ミャンマー上空で、大韓航空機が爆破され、115人の犠牲者が出ました。すぐに25歳の女性が逮捕されました。



彼女は北朝鮮の特殊工作員でした。この爆破のための工作をしたのは、彼女だけでなく年配の男性もいました。しかし事件が明るみにされる前に、この男性は自害し、彼女も自害を試みたのですが、死ぬことはありませんでした。韓国では、彼女にいったん死刑の宣告をしましたが、彼女から北朝鮮の情報を得るために特別に死刑にはしないで、韓国の公安機関（国の特別なところ）で働かせることにしました。

死刑は免れたものの、罪の大きさにおののくキムさんは、ある日、教会に誘われました。毎日、2～3時間、牧師から聖書を学ぶようになりました。聖書を学ぼうちにこの聖句に出会います。「しかし、まだ罪人であった時、わたしたちのためにキリストが死んで下さったことによって、神はわたしたちに対する愛を示されたのである。」（ローマ5章8節）



彼女は、神の御子イエス様が私たちの罪のために亡くなられたということに心を揺さぶられ、愛の神様がおられることを信じられるようになりました。そして、神様に頼り、神様の御心にしがたって生きようと決心しました。キムさんが教会に出入りしていることが知れ渡ると、犠牲者の遺族から「どうしてあんなに多くの人命を奪った罪人

を教会が受け入れるのか」と抗議が殺到しました。

そのような時、牧師は「教会は、罪人の来るところです。罪を犯した人間こそ、神の恵みとゆるしを受ける必要のある人なのです」と答えました。



キムさんは罪の告白を、そこかしこの教会で「証し」をするようになりました。そのときにはまず「私は、1987年11

月29日に、大韓航空機を爆破して、115名の尊い人々の命を奪ったキム・ヒョンヒです」と告白します。そして「証し」の最後には次のように締め括りました。「飛行機に爆発物を置いた時、私が死んでいたら、北朝鮮の企てた野蛮な行為は永遠に明らかにされませんでした。神様は、極悪な犯罪を証明するために、私を殺さず生き残されたのです。韓国の国民の皆さんを失望させぬよう一生懸命生きて、まだ神様の恵みを受けずにいる人々を神の道に導きます。」彼女はこのお方（イエス・キリスト）に出会って変えられました。



この写真は、数年前に、北朝鮮に拉致されてしまった横田めぐみさんの情報提供のためにキムさんが、横田早紀江さん（この人もめぐみさんが拉致されて後、苦しみの中でクリスチャンに…）と会われたときのものです。イエス・キリストに人格的に出会うと、闇から光に生きる人になるのです。（次号に続く）

2016年11月5日（土）千葉キリスト教会講演会『闇から光へ』にて講演された午前の演題「闇を追いやる力」は「ぶどうの枝5、6、7号」に掲載いたしました。

今回掲載の記事は、同日の午後の演題「輝いて生きる力」です。

今回の「ぶどうの枝秋号（第8号）」より、3回に亘り連続で掲載させていただきます。

「十字架上で示されたイエスの愛の言葉」との出会い

千葉キリスト教会 井本 良治

私が信仰を持つまでのいきさつを証しさせて頂きたいと思います。私が小学校・中学校と人前で話す事が苦手で、親しい間柄の方とは普通に話せるのですが、学校へ行くと何も話せなくなるんです。中学生になった時なのですが、私は余りにも自分の意見は何も言わないので、学習係と言う役に入りました。そして休み時間に職員室の教科の担当の先生の所に行き、今日は何を勉強するのですかと聞いて教科書の何ページから何ページまで何をやりますと聞いて、授業が始まって「起立」、「礼」と言って、みんなが座った時に私一人だけが立って、「今日は教科書の何ページから何ページまでこう言う事を勉強します」と発表する係をやっていました。皆さんは私のことを思い「学習係」の役を下されたのですが、私は本当に辛かったです。帰りの集会の時、皆さんさようならという前に必ず私に何か言ってくださいと言われて、立って一言二言話すと「よっちゃん話した」と言われていたんです。本当に私の無口さと言うかダンマリが先生方も心配して下さったようです。

そんな時、今でも忘れないのは中学校でクラスの友達が放課後に何人か集まって、楽しそうに話をしていると、中に入りたかったのですが、とても中に入る勇気がなくて一人で急いで家に帰って行きました。そして裏山に上って草や虫に向かって「お前こそ私の最高の友達だ」と声を出して言ったのです。でもそう言いながら本当は違うんです。人と仲良くしたかったんです。でも自然が大好きで、花や虫が大好きでした。高校へ行ってもクラブ活動がない日は、自転車で山へリュックを担いで行ったりしてました。兄は「良治お前はどうしても一人で山に行けるんだ、俺は寂しくてとても一人では行けない」と言われたんです。でも一人で平気なんです。山へ行けば一人で楽しめたんです。

私は大学に行って植物に関する勉強をしたかったのですが、高校時代ボート部のクラブ

活動ばかり一所懸命やっていて勉強しなかったんです。卒業して進路はどうしようかと言う時に大学ではなくて写真の専門学校を選びました。報道カメラマンになって森林伐採とかそう言う自然がどんどん壊されて行く状況を社会にアピールしたいなと思ったんです。でも心の底では大学に行きたいとずーっと思っていました。

専門学校2年の時、卒業制作が有りました。下北の出身なんです、下北のヒバの森林の皆伐と言って、校庭の何倍もある程の一面の木を伐採し、谷から谷にロープを張って、集材機で切った木を山用のクレーンみたいな物で集め、凄いスケールで山の木が無くなっていきました。それを写真に撮りました。

しかし、僕の中では大学で植物の勉強をしたいと言う思いが募ってきて、親に頼んで大学の勉強を始めました。ところがブランクが有って、いざ勉強しようとしても全然頭に入らないんです。英語が特に苦手で、毎日が悶々としていました。その内、自分の理想と現実のギャップで自分の存在が全く無意味のように思えてきたんです。本当に生きていると言うか、自分が嫌いだったのです。後悔ばかりして「もっと勉強しておけば良かった」、自分の今までの人生、全く意味がないように思えてきたのです。その時ふと「人間は何で生きるんだろう、何のために生きるんだろう」と疑問が湧き上がってくるのです。

6 ページに続く



青森から上京してきて布団袋と靴、それしか持ってこなかったのです。寮に入ったのでそれで済んだのですが、寮からアパートに移った時に部屋の中何も無いんです。電気釜買ったり、茶わん買ったり、箸を買ったり少しずつ所帯道具が増えてきました。ある時、アルバイトをして給料を貰い秋葉原に行ってビートルズのLPを毎月買って少しずつたまってきました。どれもこれも、私の大切な宝、でもふと私が死んだらこれはどうなってしまうの、何のために生きるの、そして今受験勉強をしていながら、少しも渉らない自分、段々自分を好きになれなくなって嫌になってくるんです。人に親切にしても、いつも見返りを求めている自分があって、私の中に人を愛すると言う気持ちが少しもないという事に気付いたんです。そうすると他人の親切も何か信じられなくなってくるんです。本当に生きることが虚しくて、ロボットのように機械的にご飯を食べて、ご飯の味が全くしないんです。「何で俺は生きてるんだろう、どうせ死んでしまうのに」と現実を受け入れられなくて死ぬことばかり考えて、自分の存在の価値も見いだせない状態でした。

そんな時に写真の専門学校の寮にいた時の友達に道端でバッタリ会うのです。「おーっ、今何してるの」と聞いたらその友達が「キリスト教やっている」と言うんです。私は何の仕事をしているのかと聞きたかったのですが、その答えがキリスト教なんです。「何それ、」その次に出た言葉が今でもどうしてあんな言葉が出たのか分からないんです。「もっと詳しく話を聞かせてくれよ、俺のアパートに来て」と言って友達をアパートに誘って、聖書の話聞くんです。神様がいて、言葉で世界を造ってあなたも私も皆神様によって造られた存在だ。ところがですね「この科学が進歩した時代に神様がいて、神様が世界を造った、冗談じゃない本当にあなたはそんなこと信じているの、不思議な人が世の中には居るなー」と思いました。私は今までの知識を総動員して、「進化論は・・・と」どんどん話しました。彼は聖書のことばかりでした。当然平行線です。毎日のように議論を繰り返していましたが、聖書の話

話を聞いている間に自分の弱さと言うか人間の弱さと言うんでしょうか。あなたはどんなに思い煩ったからと言って寿命を1秒でも伸ばすことが出来ますか。身の丈伸ばすことが出来ますか。エチオピアの黒人が自分の肌を変えることが出来ますか。ヒョウがその斑点を変えることが出来ますか。といろいろ聖書の話聞いて居るうちに、人間とは何とチツポケな存在なんだろうと思い始めました。でも神様知らない私にとっては、自分の経験・知識・能力それしか頼るすべがないのです。自分に必死にしがみついていた。本当に弱さ醜さがどんどん分かってくるのですが、私には信じる選択肢がない、私だけしかない。神様を知らない私は、自分は神と同じ位置にいるんだなと思いました。自分の弱さを認めたくない、弱い自分が嫌い、益々自分が嫌になってきたんです。

ある時、自分の努力でない、不思議な思いが浮かんできました。彼が聖書の事をよく知っているのなら彼にもっと話を聞こうと、凄く素直になれたんです。同い年から教えるを乞うみたいなのは私のプライドが許さなかったのですが、彼の話聞こうじゃないかという気になったのです。それから彼に対して尊敬の念をもって聖書話を聞きました。そして教会に誘われて行きました。日曜聖書研究しました。でも聖書の言葉は全然わからないんです。もうこれっきりだと思って帰ろうとしたら、牧師に「井本さん来週もまた来てくださいね」と誘われて断われなかったんです。日曜聖書研究会に通い続けたのです。聖書の勉強を続けるきっかけになった人がもう一人いました。教会の方で「井本さんあなたは進化論信じていますよね。私はあなたの信じていることを否定はしません、ただ進化論と神様がいてと言うこの聖書の両方を勉強して見て下さい」と言われたんです。私の信じていた進化論をいきなり否定しなかったのです。私の信じていることも大切にしながら聖書もと言う事で、私も聖書を学び続けることが出来ました。

7 ページに続く



やがて、ある聖書の言葉から、他人の愛を感じるようになりました。イエスキリストが十字架にかかって亡くなる前に「父よ、彼らをお許してください。彼らは何をしているのか分からずにいるのです」と言う言葉で、キリストって凄い人だな。この人の中にある愛って本物みたいな気がする。聖書を学んでゆく間に、明日の事も分からない自分にしがみつくのはやめようと、決心しました。私の経験・知識全てを横に置いて、聖書、紙に書かれたキリストと言うものを信じてみよう。聖書を私の価値観として生きてみようと思いました。その時に「自分の価値観を捨てるという事は自分に死ぬのと同じだ」と思いました。

私は紙に書かれたキリストと言うものを自分の主として受け入れて歩いてみようと思心してからですが、私の想像を遥かに超えた素晴らしい事だったんです。イエス・キリストに委ねて歩くと言う事が。

人間の価値は、優れた能力、知識、知恵が有ることだとの想いに取りつかれ、それらの何もない嫌な自分を、イエス様がありのままに受け入れて下さると言う事を実感しました。その時、本当の自由を得たと思いました。色々有りましたが今日の私の支えになっています。ご清聴有難うございました。

2017年6月25日(土)の

「証しと賛美の集い」における

「証し」より

掲載させていただきました。



コスモス

「人は目に見える物を見るが、主は心を見る」

千葉キリスト教会 平尾 慧美

私は聖書の神様に出会ってからバプテスマまでの話は数年前にさせて頂きましたので、今日はバプテスマを受けた後、三育学院に行くまでの神様のお導きを受けたことを証しさせて頂きたいと思います。4年4ヶ月働いた職場で安息日を守りながら、お仕事を続けて行くことがどうしても出来なくなりました。それで神様に祈り求めて、これからどのようにしたら良いかと言う事を祈って、また友達もそれから天沼教会の祈祷会で皆さんが熱心に祈って下さいました。お祈りしている内にどうやら三育学院に行く道が開かれていく様でした。昭和33年9月6日にバプテスマを受けまして、その翌日、学費の目途もつかないまま、まるで押し出されるようにして三育学院に行きました。今でもその時の気持ちハッキリ覚えているんですが、頭の中真っ白で「これからどうなるのかしら」とそればかりが頭の中を占めていました。三育学院に行きましてから、学費のない私のために学校では次の事を準備して下さいました。まず、その当時は宣教師の方々が割といらっしゃいまして、日系二世の外間先生がいらっしゃったのですが、その先生のお宅で全時間働くようにと決められていました。皆様ご存知と思いますが、三育学院は労作教育をモットーとしてますので働きながら勉強するという学校ですね。私はそう言う訳で全時間、先生のお家で働くと言う事になってました。その働きに対してお給料はでませんけれども、三食のお食事は先生のお宅でご家族と一緒に頂くと言う事が決められていました。働くばかりでは気の毒だと言うので週に2科目(旧約の預言書とダニエル黙示録のクラス)を聴講生として授業を受けるようにと決められていました。

月に1回木更津の職業安定所に行って失業保険のお金を頂いて、それを貯めて翌年の新学期に備えるようにと言う事もアドバイス頂きました。まずは失業保険のことなんですが、早速木更津に行ったんです。「あなたはなんでこのお仕事を辞めたんですか」と聞かれたので正

直に「聖書には安息日は守るようにと書かれますし、安息日は仕事を休んで教会に行って神様をお礼拝するために土曜日はお休みにしたいんです。職場ではどうしても土曜日はお休み頂けなかったから辞めたんです」と言ったんです。そうしたら係の方が非常に怒って「あなたみたいな理由で職業を辞めるなんてそういう人に失業保険を支給することは出来ません」と言われたんです。私もビックリして早速お祈りをしました。友達も一緒にお祈りをして下さいました。そして「次の月の指定された日に来てみなさい。その時最終的な結果を言いますから」と言われて行きました。そうしたらお陰様で神様のお助けもあったと思います。無事に失業保険を頂いて、毎月下さって、それを貯金して翌年の新学期に学校に入れる学費を貯める事が出来ました。

三育学院時代色々なことを学びましたが、特に印象に残っている、学業をしながら働くことになった、外間先生のお宅の事をお話したいと思います。先生ご夫妻がとても喜んで私を歓迎して下さいました。仏教徒の家に生まれ育った私にとってクリスチャンでどんな生活するのか良く分かりませんでしたけれども、いきなりクリスチャンホームに入れられて、先生のご家族には暖かく迎えて頂いたことは、私にとっては神様のお恵みで、今でも感謝しております。外間家には5人のお子様がいらっしまして、一番上のお坊ちゃんはその当時11歳でしたが、読書家で常に本を読んでいる子でした。2番目の男の子はミニ探検家と言うか、学院の構内を隈なく歩いていろんな物を発見したと喜んでいらっしゃるお子さんでした。3番目は本当に静かな恥ずかしがり屋の優しいお嬢さん。4番目の坊ちゃんは廃品の物とか木や葉っぱや石などを集めて常に何かを作っているお子さんでした。5番目の坊ちゃんは1番お父様に似てらして良くお話しするユーモアのセンスがある坊やで良く私を笑わせて下さいました。

9 ページに続く



この5番目の坊ちゃんモーリーと言う方なのですが5歳の割には凄い口が達者で、その当時ラドン先生と言う方もいらしたのですがそのお家に男の子と女の子の双子がいて、この子に良くいじめられていたらしいんです。そうしたらこのモーリーが遊びに行く時、いつも玄関でお母さんにお祈りしてもらって遊びに出かけていました。

外間先生は、私がバプテスマを受けたばかりだったのでご配慮して下さったのだと思いますが、お忙しい先生はお食事中でも聖書の話のいろいろ聞かせて頂きました。ミセス外間もととても優しい方で、私にお料理を教えたり、アメリカでのセブンスデーアドベンチストの暮らし振りとかを良く聞かせて下さいました。ある時、「慧美さん、神様は色とりどりの美しいお花をお造りになってこの世界を飾って下さったんだから、私達もいろいろの色のお洋服を着て神様を賛美して良いのよ」と教えて下さったんです。その当時は何故か、信仰深い人は白いブラウスで黒いスカートと言うスタイルが、皆さん暗黙のうちにそう思っておいでになったような気がします。昭和33年はまだ物が無い時代でしたから、どうしてもそう言うスタイルになったのかも知れません。

私が外間ハウスでの働きがだんだん慣れて来た頃、ミセス外間は毎日曜日東京に歯の治療を受けに行かれることになりました。外間先生は日曜日には、ご自分の学校にあるオフィスでお仕事をなさるか、或いは学校の外の街に伝道に行かれるとか、お忙しく過ごしていらっしました。ですから、私は日曜日には半端でない洗濯物の量と格闘しながら子供たちと関わって、そしてお料理作って子供たちと一緒に食べて、夕方は先生ご夫妻の食事をテーブルにセットして、台所を片付けて寄宿舎に帰っていました。

ある月曜日の朝の事です。いつものように寄宿舎で朝の礼拝を終わって外間ハウスに向かいました。玄関に入って直ぐ右側のドアを開けた途端、私はそこに立ち尽くしてしまいました。台所の中がもうとても尋常じゃない状態になっていました。昨夜綺麗にして帰ったのに、私は一瞬何が何だか分からなくて、そこに立ち

尽くしていたんです。その状態と言うのは金曜日に買ったばかりの一升瓶に入った油が倒れて、その油が床一面に流れているんです。台所の流しの中はと言えば何かお料理をした後らしく、ボールやら攪拌機やらメチャクチャにその中に入ってるんです。その床の上には、先生ご夫妻の結婚祝いに頂いた美しいお皿が割れていました。そしてご飯のおひつ(御櫃)ですね、最近はおひつあまり使いませんが、昔はおひつにご飯を入れましたね。そのおひつの上にピッタリと油料理したらしいものを丸く乗せたらしく、油の跡が付いてました。私は呆然とそこに立ち尽くしながら、果たしてこれは何処から片付けようかと思っていると、あちらのドアからミセス外間がニコニコしながら現れまして、「慧美さんおはようございます。昨夜は私とてもハッピーでした。」この台所の状態とハッピーと言う言葉が上手く結びつきませんでした。私たぶん怪訝な顔をしていたと思うんです。

奥様が話をされるには、子供たちは私が帰った後にマミーが遅く疲れて帰って来るから、皆でパンケーキを作って待って居ようと言う事になったらしいんです。謎が解けました。彼ら5人がキッチンの中で群がって働く姿が見えて来たんです。まずお兄さんだと思んですが、ボールに小麦粉を入れて卵を割った後が有りますから卵も入れたんだと思います。パンケーキの種を作ったんでしょう、ガス台の上にフライパンを置いて油の瓶を持ち上げてフライパンに油を入れたと思うんですが、そこまではいいんですよ。その後、瓶に蓋をしないで多分床の上に置いたんだと思います。ガス台の周りにどうしても子供たちは群がってパンケーキが焼けていく状況を皆が見つめていたんだと思います。群がっている内に誰かが瓶につまずいたか、ぶつかったかで瓶が倒れて…でもパンケーキの方に気持ちが向いてますから瓶の事なんかはあったらかしているために一升瓶の油が全部流れてしまったと思います。

10ページに続く



パンケーキ焼く時って子供って見てるだけじゃなく自分も参加したいんです。「マミーこれ私が焼いたんだよー」とか言いたいと思うんです。言わなかったとしても、誰でもお玉にパンケーキの種を入れフライパンに入れたい。

「次は私よ!」「次は僕だよ!」とか言って、お玉を取り合ったりしている内にその種が飛び散ったりしたんだと思います。やがてパンケーキが焼けましてお皿に乗せるのですが、誰かが食器棚からマミーに作ってあげるんだからと最高のお皿を出してきた時に床は油まみれだから、ステンと転んでお皿が割れてしまったと思います。でも出来上がったパンケーキをどこかに置かなくてはいけない、丁度おひつが有った。その蓋の上が平らだからと言ってそこに置いたんだと思います。おひつの蓋の上がクツキリと油の跡が付いていました。これは私の想像ですが、皆がマミーのために一所懸命作ったという事は分かりました。子供たちは出来上がった後片付けよりもパンケーキが出来上がれば目的は達成される訳ですから、それをテーブルに載せて、お母さんが帰って来るのを目を輝かせて、子供たちは待っていた事でしょう。

ミセス外間と私は早速、床に流れた油を吸い取るために新聞紙を広げたりしていました。私が驚いたのは、無くなってしまった油一升(自分のお金で買った訳ではないのに)と、ミセス外間が結婚祝いに頂いた割れてしまったお皿(私の結婚祝いに頂いたお皿ではないのに)です。そしておひつ、当時日本人は綺麗に磨いていました。それなのにお櫃の上にベタッと油の跡が付いておそらく取れないと思うんです。私はそれらの事が頭にバッチリと入って、黙々と

そのお掃除の作業をしていました。ところがミセス外間の口からはそれら失った物への愚痴らしい言葉は一言も出てこなかったのです。私は掃除をしながら、「エッ・・・?」何か違うぞと言う事を感じ始めました。価値観の違いです。

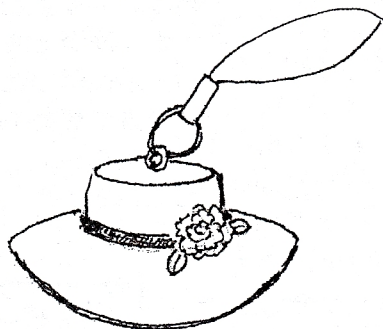
サムエル記上16章の7節の後半にこのような言葉が書かれています。「人は目に映ることを見るが、主は心を見る。」まさにミセス外間は失った品物を見るのではなくて、子供たちのお母さんを思う心を喜び、その心を大切になさっていたのだと思います。時々この事を思い出しますと、私がお母さんだったらこの時何と言ったかなと思うんです。買ったばかりの油だったのにと、結婚祝いのお皿だったのにと、かと言ったかもしれません。この時、外間先生の奥様の子ども達に対する優しい愛、しかもそれは神様が「人は目に見える物を見るが主は心を見る」ミセス外間の素晴らしいクリスチャンのお姿を拝見しました。こう言う訳で私は神様のお恵みによって、いきなりでしたけれどクリスチャンファミリーに入れて頂いて、色々沢山の事を教えて頂いたことを、今でも感謝しております。

2017年6月25日(土)の

「証しと賛美の集い」における

「証し」より

掲載させていただきました。



多くのお客様に恵まれた「サンセット・バイブル・カフェ『夏祭り』」

千葉キリスト教会 安息日学校副校長 栗山 哲次

千葉教会では、毎月第4週の土曜日に、普段教会に関わることをない方に、教会に来てその雰囲気を感じていただき、イエス様の福音を知っていただくための入り口となることを願って、サンセット・バイブル・カフェを開催しています。

サンセット礼拝に続いて夕食を召し上がっていただき、ゲストをお招きしての音楽演奏などのプログラムをお楽しみいただいています。7月22日(土)は季節にあわせて夏祭りを開催いたしました。

ちょうど同じ日に、地域の町内会の夏祭りも開催されていましたが、事前のチラシでのご案内の効果もあり、1階ロビーでの夕礼拝では、用意した席に座りきれないほどの多くのお客様にお越しいただくことができました。慣れない讃美歌と一緒に歌ってくださる方、また磯部牧師のメッセージに聞き入る方も多くみられ、神様の祝福を感じる夕礼拝でした。

夕礼拝が済むとお待ちかねの夏祭りスタートです。

流しそうめんでは小さなお子さんから大人の方まで楽しく、また真剣にそうめんをすくって大盛況でした。また三育フーズの“リンケッツ”を使ったホットドッグも好評で、お代わりをする方もあったようです。その他ポップコーンにかき氷、ラムネに、こちらも三育フーズから“元気なカルシウム”とお祭り気分で大いに盛り上がりました。

締めくくりはビンゴ大会。読み上げる番号にみんな真剣です。1等賞の方も、最後の最後によりやくビンゴが出た方も、笑顔で商品を持っていかれた様子がとても印象的でした。

そうめんや缶詰、またビンゴの商品など、皆様から多くのご寄付をいただいたことや、また準備に時間を割いてくださったご協力があって、今年も無事、楽しく夏祭りを開催することができました。皆様のご協力と神様の祝福に、心から感謝いたします。



お客様が席に座りきれない
「サンセット礼拝」



大盛況の
「流しそうめん」

楽しく充実した「夏期聖書学校（VBS）」

SDA千葉キリスト教会 安息日学校副校長 水野 綾子

今年のVBSは、1泊2日で、12名の子ども達が参加しました。

1日目はお礼拝中の特別讃美歌を、子ども達が中心に三代代有志で



「真昼のように」を讃美しました。元気な歌声が会堂に響きわたりました。

午後には工作をし、ペットボトルのフタ、竹くし、段ボールを使って、車を作りました。皆真剣に作業し、それぞれ工夫されたオリジナルの車を作り上げ、走らせて盛り上がる子ども達は、男女を問わず夢中になって遊んでいた姿がとても印象的でした。



二日目、礼拝堂で磯部先生に素敵なイラストを使って聖書のお話をして頂き、みんなで讃美をしました。

それから、牛乳パックを使って、切って繋げて、長い長い流しそうめんをしました。教会の外階段に繋がった牛乳パックを括り付け、3階から1階までそうめんが流れる様にしました。直線部分はもちろんの事、カーブ部分は特に工夫が必要で、試しに流した水が漏れたりしながらも、何度も修正し、無事そうめんが流れました。その流れるスピードが速いこと速いこと！びしょびしょになりながらも、お腹いっぱい食べられて、楽しい流しそうめんをする事が出来ました。



あっという間の、1泊2日でしたが無事守られたこと、楽しい時間が過ごせた事を神様に感謝します。協力して下さった磯部先生ご夫妻をはじめ、教会の皆様にも感謝です。ありがとうございました。

実り多きサマーコンサート

千葉キリスト教会コワイヤー 酒井 紀子

主は羊飼いとして群れを養い、御腕をもって集め 小羊をふところに抱き、その母を導いて行かれる。(イザヤ書40章11節)

この聖句をテーマに、2017年7月2日(日)千葉教会礼拝堂にて、サマーコンサートが行われました。光あふれた夏の日の午後、礼拝堂はいっぱいになり、音楽の恵みに満たされたひとときになりました。

安村唯さんの「羊は安らかに草を食む」(バッハ作曲)の清朗なフルート演奏で始まり、「アンダンテとロンド」(ドブラー作曲)は太田香織さんとのフルートデュオで、その美しい調べは会堂を満たしました。藤澤正洋さん(オーボエ)と森大地さん(チェロ)による「ノクターン」(ブルッフ作曲)の深みある豊かな演奏に続いて、加藤潤一さん(ホルン)を中心とする関東一円から集まった青年たちによる、金管六重奏の演奏がありました。「シャローム」(和田信作曲)「三つのレジェンド」(三枝成彰作曲)の2曲が演奏され、重厚なハーモニーと素晴らしいアンサンブルは聴衆を魅了しました。ソプラノ歌手岡田陽子さんによる独唱は日本の歌3曲(浜辺の歌、からたちの花など)で、貴重なお話を加えながら、心を込めて歌いあげて下さいました。

プログラム後半はヘブンズコワイヤーの賛美の歌声でした。

主は羊飼い、わたしには何も欠けることがない。主はわたしを青草の原に休ませ憩いの水のほとりに伴い 魂を生き返らせてくださる。

(詩編23編1-3節)

この聖句に四人の作曲家が曲をつけた「主はわが羊飼い」4曲と上田健先生のメッセージをはさんで「野のユリ」「Look at the World」など5曲を賛美いたしました。上田先生は、聖句にもとづいて“羊のように弱い私たち人間が、羊飼いなる神様にすべてを委ねて生きることの大切さと、その素晴らしさ”をわかりやすく丁寧にお話して下さいました。

「神様を賛美したい」「教会で歌ってみたい」という想いは教会の枠を超えて心ひとつとなり、今回全国から集まったヘブンズコワイヤー参加者は46名でした。千葉教会はじめ多くの教会員とその友人、知人で、米国からの参加者もありました。岡田陽子先生の生徒さん7名も「一緒に賛美したい」と参加して下さい感謝でした。

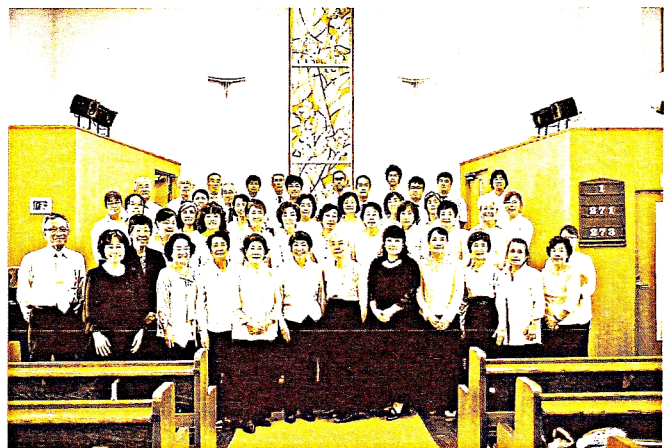
素晴らしい音楽に心みたまされて、サマーコンサートは終了しました。

【クリスマスコンサートのお知らせ】

2017年12月24日(日) 午後1時より、千葉教会礼拝堂にてコワイヤー主催によるクリスマスコンサートが開催されます。皆様のご来場をお待ちしております。



青年たちによる金管六重奏の演奏



ヘブンズコワイヤーのメンバー

楽しかった親睦旅行

—参加した子供さん達の感想文です—

くりやま そうた

ぼくはレクリエーションで代表の人が絵を描いてそれを当てるというゲームが一番楽しかったです。

くりやま ひなこ

みんなで一緒にお風呂にはいって、ご飯を食べて、礼拝してゲームして、寝て、全部楽しかったです。また行きたいです。

みずの ゆうま

まず入り口に入って誰が来るのかプレートがあつたのはすごいと思いました。

そして下駄箱は大きくて入る場所が決まっているのはすごい。

しせつを案内して見せてくれるのは人ではなくビデオ。わかりづらいと思ったけど意外にわかりやすい。

部屋に入ってお風呂にいきました。それまた広いこと、広いこと！

泳ぎたくなる！

食堂にはあの伝説のドリンクバーが！！

全体の感想、（施設が）広いこと広いこと！

色々あって楽しことがあつた。

みずの まな

夜のゲーム・・・玉入れで加^ゴを持つ人がボールが当たっても痛くないようにガードするお面をしのぶくんがかぶったらすごく似合っていたのがとてもおもしろかったです！

食事の後片付け・・・お皿を^{チョ}^ホ流れる水の中に入れるのが楽しくて、いろんな人のお皿を片付けました。

ながしま ゆうた

ぼくは夜みんなで一緒にしたゲームで日本のはたをかきました。信号とか言われたけど、周りの人が「日本のはた」だとわかってくれました。食事はポテトフライがおいしかったです。1週間くらいとまりたかったです。

千葉教会では、6月17日（土）、18日（日）の二日間にわたり、「千葉県立手賀の丘少年自然の家」に親睦旅行に行きました。

その時参加された子供の皆さんの感想文です。

宿泊した
「千葉県立手賀の丘少年自然の家」
の写真です



全日本女性大会に参加して

千葉キリスト教会 女性部家庭会 根本 弘子

4月に開催された全日本女性大会に参加し、大いなる恵をいただきました。デユアート先生のユーモアたっぷりのお話と、朱見先生の絶妙な通訳のやり取りに、時おり心がほっとするものの、メッセージの内容は、「嵐の時代の隠れ家」戦争、難民、テロ、地震、洪水など、まさに誰もが終末という思いを感じる時代です。

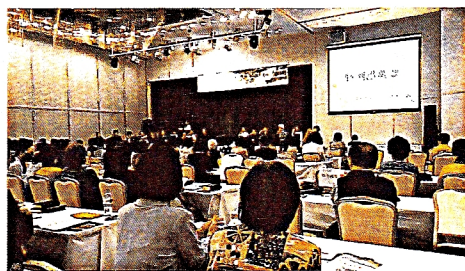
『危険な時代だが、これらはかつて預言され成就している。そしてもっと恐ろしい嵐が私たちに迫ってきている。それは霊的な嵐が教会を襲い、私たちを真理から遠ざけようとしていることです』とデユアート先生は、聖書と証の書を通して、様々な事例を語って下さいました。

このような時にいる私たちがなすべき備えとは何でしょうか。♪さあ起きよ！主は来たもう・・・今こそ告げ知らせよ主の良き訪れをと、私たちは賛美しました。

私たちの使命は真理のメッセージを伝えること、必要な力、知恵、守りは、すべて神様から与えられること、それには『一人一人が毎日神様と二人だけの時間を持ち、友達に心を打ち明けるように神様にも心を開いて、神様の御言葉を勉強し、そして神様に話をして（祈り）、聖書研究と祈りを通して私たちに話される小さな神様の声を聞くということです。』[世界総理夫人の励ましのメッセージ]より。

日が地を照らし世が光で満ちるように、魂の太陽が心と思いの部屋を照らし、私たちが主であって全き光となるように共に祈り続けましょう。

セミナー以外でも証会や伝道報告会、沖縄三育中学校女子聖歌隊の賛美、小グループでの交わり等、とても充実した三日間を過ごすことができました。全てに感謝いたします。



2017年4月SDA
全国女性大会参加者
全員で賛美をしている
写真です



洗礼を受けた保科姉と共に。



久しぶりに青森教会の荒金姉にあえました。

9月、10月、11月の行事

◇ 敬老お祝い会

☆日時:9月16日(土)13:00~15:00 ☆場所:千葉キリスト教会 礼拝堂

☆幼子から高齢者の方々まで集う楽しい敬老お祝い会です。75歳以上の敬老お祝い対象者の「証」があります。お祝い会参加者の賛美などもあります。お楽しみください。

皆様のお越しをお待ちしております。

◇ 伝道講演会(講演題など詳細が決まりましたら、別途チラシなどでご案内申し上げます。)

☆日時:

I部:9月16日(土)、17日(日)、18日(月)、19(火)、20(水)

II部:10月6日(金)、7日(土)、8日(日)、10日(火)、11日(水)

10月13日(金)、14日(土)、15日(日)、17日(火)、18日(水)

10月20日(金)、21日(土)、22日(日)、24日(火)、25日(水)

10月27日(金)、28日(土)

◇合わせて22日間の講演会です。

◇講演会開催時間:夜7時~8時30分です。

◇10月28日(土)のみ講演は、礼拝の時間に行います。午前11時~12時です。

☆場所:千葉キリスト教会 礼拝堂 ☆講師:ロン・クルーゼ SDA北太平洋支部 牧師会長

☆講演会にご参加頂き、「イエス・キリストの恵み、神の愛(コリントの信徒への手紙二13章13節)」に出会って下さい。

☆毎週土曜日の礼拝:午前11時~12時の礼拝では、安息日礼拝の説教があります。ご参加ください。

毎月の定期集会

◇ 菜食料理講習会

☆日時:毎月、第一月曜日に開催します。午前10時~13時

☆場所:千葉キリスト教会 集会室 ☆参加費:500円 ☆どなたでもいらして下さい。

◇ 聖書セミナー

☆日時:毎月、第二(黙示録)、第四(ダニエル書)水曜日に開催します。午前10時~11時30分

☆場所:千葉キリスト教会集会室 ☆講師:千葉キリスト教会牧師 磯部豊喜

◇ サンセット・バイブル・カフェ

☆日時:毎月第四土曜日の夕べ開店します。午後5時30分~7時30分

☆場所:千葉キリスト教会 集会室

☆心がほっとする聖書の話、素敵な音楽、楽しいおしゃべりなど、癒しの時間を共に過ごすことができます。軽食とお茶を用意して、皆様のお越しをお待ちしております。

安息日学校(毎週土曜日)

☆賛美礼拝:午前9:15~9:25

☆聖書の学び:午前9:25~10:40

安息日礼拝(毎週土曜日)

☆千葉キリスト教会:午前11:00~12:00

☆シャローム若葉虹の家:午前9:30~10:10

祈禱会

☆毎週、火曜日夕午後6時及び水曜日朝午前7時30分から祈禱会をしております。

【編集後記】「ぶどうの枝」2017年秋号をお届けします。サマー・コンサートや夏祭りなどに、約150名の皆様にご参加下さいました。今後も、多くの方が教会に足を向けて頂けるプログラムにご期待ください。

SDA千葉キリスト教会

〒264-0028

千葉市若葉区桜木5丁目15番1号

旧法務局前通り:3、4階 千葉キリスト教会

1、2階 シャローム若葉

電話:043(231)3620

FAX:043(231)1634

Email:sda-chiba@rio.odn.ne.jp

ホームページ:

http://www2.odn.ne.jp/sda-chiba/

★発行責任者:

磯部豊喜 牧師

★スタッフ:

酒井 闊 吉田 敏英

綿引 秀子